

試験用ポンプの熱源として用い、貯湯タンクまで引湯する実証試験を行った。

温泉水（約80℃・毎分55～60L）および沢水（約5℃・毎分60～65L）の条件で実証試験を行った結果、400m先の源泉貯湯タンクまでの送水に成功し、毎分60L以上の送湯が可能であることを確認した。また、同時に温度や流量のデータを取得し、今後の製品化へ向けた課題や方向性を確認できた。

3. 5 衝突帯における火山フロントでの地殻強度異常場のモデル化—1938年屈斜路地震断層の活動特性に関する研究

（担当）：岡崎紀俊・大津 直・田村 慎・廣瀬 亘・川上源太郎・鈴木隆広・田近 淳

1938年の屈斜路地震断層の活動特性について、北海道大学地震火山研究観測センターと共同研究を実施した。方法は、既存文献資料および平成20年に実施した断層トレンチ調査資料により、地震断層が出現した位置を確認し、地表下浅部の構造を把握するため地下レーダー探査を実施した。その結果、丸山東方探査地において、平成20年のトレンチ調査で出現した断層の南方延長部に同様の反射面の不連続が確認された。トレンチ調査の結果なども考慮した結果、地震動により表層が側方に伸長したことによる副次的な亀裂、あるいは横ずれ断層末端に見られる Branching、の2通りの解釈が可能である。一方、和琴半島南部探査地では、畑地と牧草地の境界部において反射面の不連続を確認した。1938年地震当時の断層の位置を現在地表では確認できないものの、それが断層を示す可能性が考えられる。